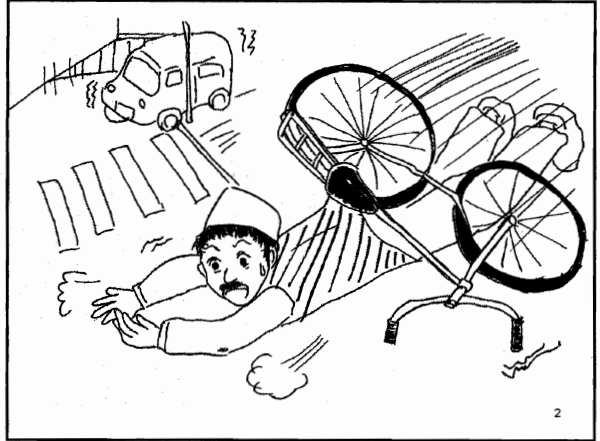
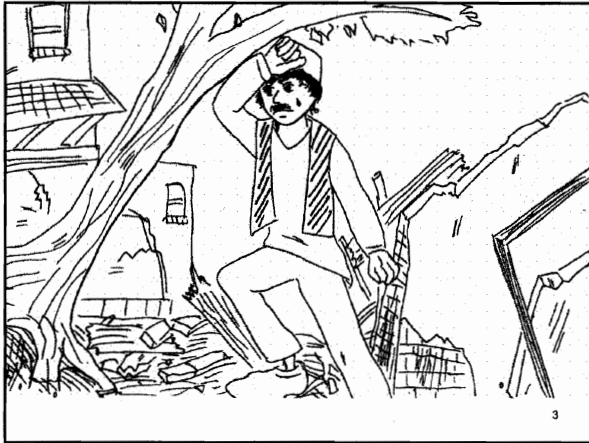


バイチャ物語

1



2



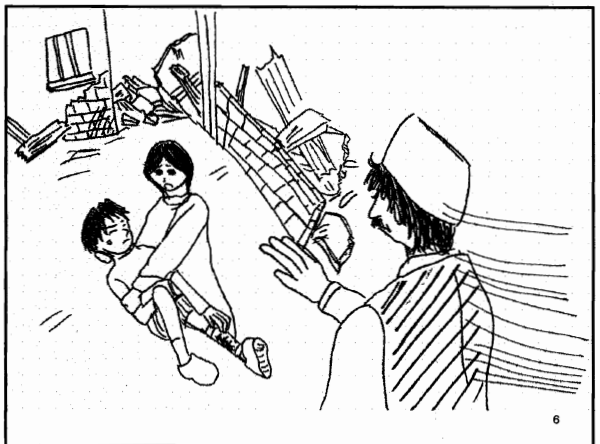
3



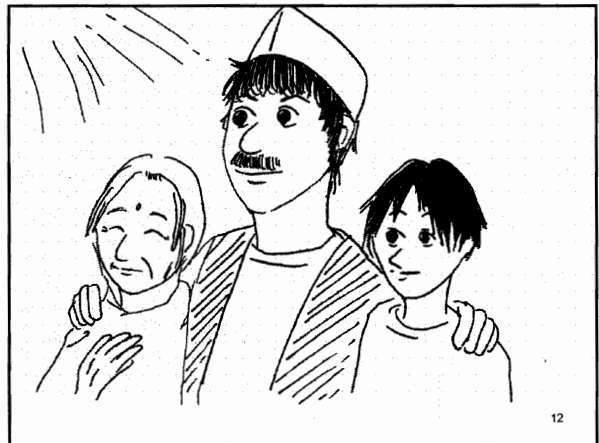
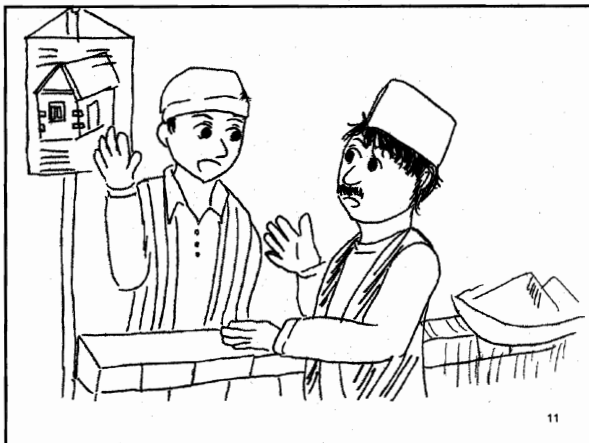
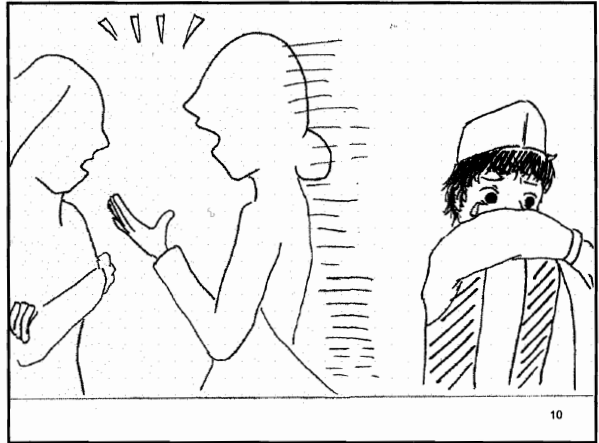
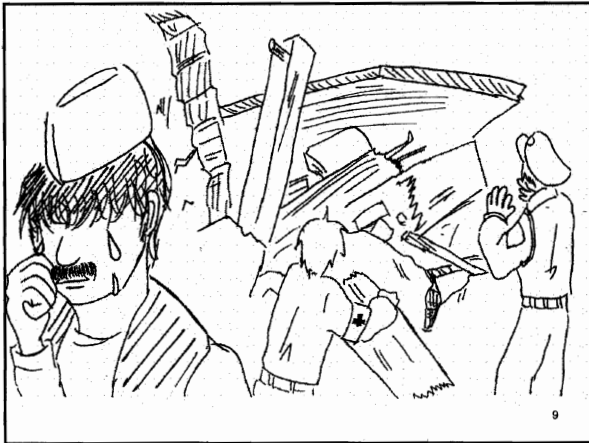
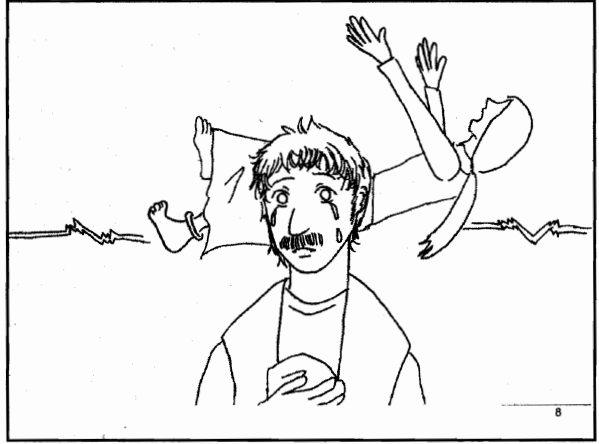
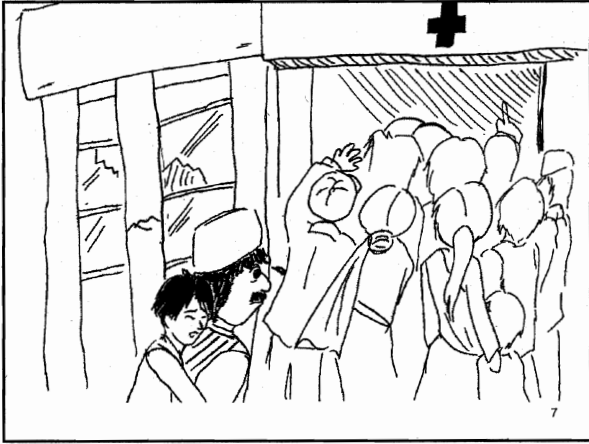
4



5



6



バイチャ物語

①これは、ネパールのとある街でのお話です。

ある日、この街に住むバイチャは自転車に乗りお遣いに向かっていました。すると、どうしたのでしょうか。なぜか急に自転車がグラグラします。バイチャはびっくりして転んでしまいました。周りにいた人々もみんな転んでしまっていて、建物や木々も大きく揺れています。これは・・・地震です。

②家族のことが急に心配になったバイチャは家へと必死に走ります。しかし、道は崩れた家でふさがれていて、上からも崩れた家の破片が落ちてくるので、なかなか家へと辿り着けません。やっとの思いで家の近くまで来たバイチャの目に入ったのは、半分が崩れ落ちた自分の家でした。

③「父ちゃん！母ちゃん！無事か？」必死に呼ぶものの返事はありません。近くにいる人に父さんや、母さん、奥さん、息子の居場所を尋ねましたが、みんな自分の家族を捜しているようで、それどころではありません。

④途方に暮れるバイチャが向かった先は自分の持つ畑でした。そこには何人かの人が避難していましたが、その中に泣き崩れた母の姿がありました。母は「お父さんは今日、体調が良くないのであの家に残っていました。息子は学校へ行っています。そしてあなたの奥さんは今実家に帰っています。」と言いました。

⑤まずバイチャは急いで息子のいる学校へ向かいました。学校に着くと、校舎のいたるところが壊れ、生徒も先生も怯えている様子を目の当たりにしました。バイチャの息子はケガを負い、裏庭に横たわっていました。先生が言うには、息子は地震の揺れに驚き、校舎の2階から飛び降りて足を骨折してしまったようだ、とのこと。バイチャは息子を背負い、病院へと急ぎました。

⑥病院は大勢のケガ人とその家族でいっぱいでした。医者の数も少なく、治療に必要な水道や電気も止まっています。バイチャは息子と病院に行った後に、妻のいる実家に行こうとしていましたが諦め、今夜は病院で息子と過ごすことにしました。なかなか診察を受けられないことと、疲れや寒さのせいで、多くの人が精神的にもダメージを受けているようでした。

⑦翌朝、家へと戻ったバイチャを待っていたのは悲しい知らせでした。実家にいた彼の奥さんが地震に遭ったのは、階段を下りているときだったようです。奥さんは地震の揺れでよろめいて倒れ、重傷を負ってしまい、その日のうちに亡くなってしまったというのです。

バイチャはただただ信じられず、茫然としていました。

⑧父の居場所も未だにわかりません。バイチャは、父が半分壊れてしまった家に閉じ込められているので出てこられないか、または地震が起きたときに家から離れていて、ケガをしてしまったために家まで帰って来られずにいるのだと思っていました。しかし、どれだけ父が行きそうな場所を捜しても父は見つかりません。みんなはやはり崩れた家の下敷きになってしまっているのではないかと思い始めました。

⑨ついに、その日の昼に警察とボランティアの方々の協力で父は見つかりました。しかしそれは家のレンガの下敷きになって亡くなっていた姿でした。

⑩父親と奥さんを失い、悲しみに暮れるバイチャ。すべての人が元気を失っていました。彼の周りでは、さまざまな知ったかぶりの話が聞こえてきます。いつ、どこで、何をしておけば地震から身を守ることができるのか。バイチャは込み上げてくる怒りを抑えながら、知っていたらなぜ自分に教えてくれなかったのかと思いました。もし地震に遭遇したときにどうすべきかを知っていたら、妻は階段から落ちて死ぬこともなかっただろう。息子も驚いて校舎から飛び降りなかっただろう。悔やんでも悔やみきれません。

⑪地震の後、バイチャは新しい仕事を始めました。石工として働くことにしたのです。地震に耐えられる強い家を建てるために、一生懸命学んでいます。

⑫地震から1年が過ぎ、父と妻の一周忌を行いました。地震の傷も消えつつありますが、すべて消えることは絶対にありません。しかし、みんな前を向いています。足を悪くしてしまった息子は、サッカー選手になるという夢は諦めましたが、先生になってこの地震について伝えていきたいと考えています。母は歳をとっていますがまだまだ元気です。バイチャも前を向き、二度と同じことを繰り返さないためにも、地震に強い新しい家を建て、多くの人を守っていくと決めたのでした。